

ベンジルアミノプリン処理によるジョイント1年目の新梢伸長促進

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

‘新甘泉’の早期多収を目指してジョイント仕立てに取り組む農家が増えているが、ジョイント後の新梢伸長が不十分で、同仕立てのメリットである早期多収に結びついていない園が散見される。

そこで、ベンジルアミノプリン（以下BA）処理がジョイント仕立て‘新甘泉’の発芽と新梢伸長に及ぼす影響について検討した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) BA処理により、ジョイント1年目に主枝から発生する新梢の伸長が促進される。
- 2) 5月上旬から6月中旬の散布で効果を得ることができる。

2 試験成果の概要

(1) 試験1：萌芽後に停止した芽に対する効果

- 1) 試験には、接ぎ木1年目のジョイント仕立て‘新甘泉’を供試した。
- 2) 5月11日時点で伸長停止していた芽（図1）に、BA液剤（商品名：プレリユード液剤）30倍液をハンドスプレーでスポット散布した。
- 3) 10月23日に芽の伸長程度を調査したところ、無処理区では半数以上が1～2cmで止まっていたのに対し、散布区ではほとんどの芽が10cm以上伸長していた。（図2）



図1 薬剤散布時の芽の状態（試験1）

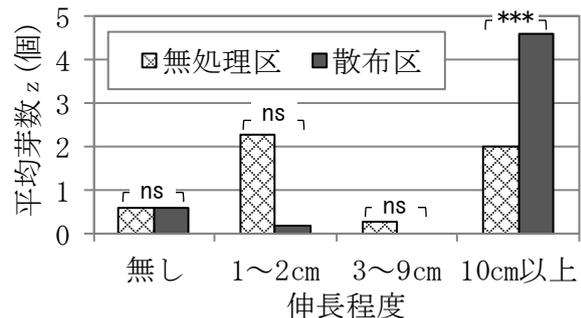


図2 BA処理が‘新甘泉’の芽の伸長程度に及ぼす影響（5月処理）

z) 10樹の平均値（1樹あたり調査芽数：約5芽）
y) ウェルチのt検定により、***は0.1%レベルで有意差あり、nsは無しを示す

(2) 試験2：処理時期拡大の検討

- 1) 6月14日に試験1と同様の薬剤処理を行った。ただし、試験1とは異なり、不発芽や5cm以下で伸長停止した芽など、形態の異なる芽（図3）に散布した。なお、薬剤散布は試験1と異なる樹に施した。
- 2) 10月23日に芽の伸長程度を調査したところ、無処理区ではほとんど変化が見られなかったが、散布区では10cm以上に伸びた芽の割合が増加した。（図4）



図3 薬剤散布時の芽の状態（試験2）

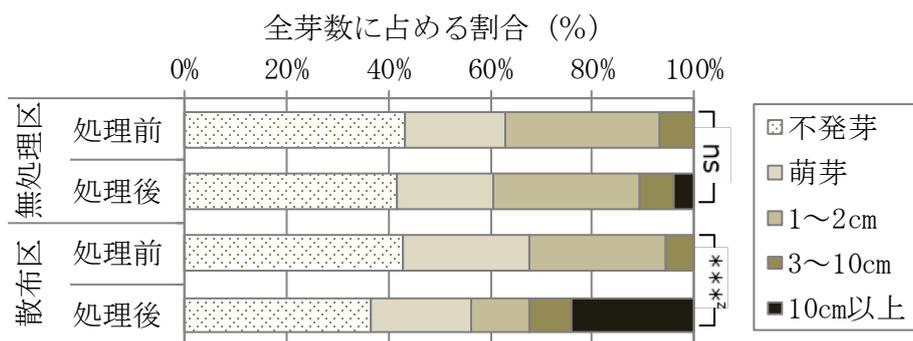


図4 BA処理が‘新甘泉’の芽の伸長程度に及ぼす影響（6月処理）
 z) クラスカル・ワリス検定により、***は0.1%レベルで有意差あり、nsは無しを示す

(3) 以上の結果、5月上旬～6月中旬のBA処理で、ジョイント1年目における新梢の伸長が促進され、翌年以降の結果枝確保に繋がると考えられた。

3 利用上の留意点

- (1) 薬剤を散布する時点で、全く動いていない芽（図3中央）には効果がない。
- (2) 既に伸び出した芽に薬剤がかかると、腋芽からも新梢が伸び出す（図5）ため、伸長させたい芽のみを狙ってスポット散布する。
- (3) 使用にあたっては登録内容（表）を遵守する。



図5 5月にBA処理した芽の処理1ヶ月後の状態

表1 プレリユード液剤の適用表（ナシの項のみ抜粋）【2019年12月4日現在】

作物名	使用目的	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンゾルアミノフリンを含む農薬の総使用回数
なし（栽培育成時の非収穫年樹）	側芽発生促進	30倍	3ml/側芽	側芽発生時	1回	発生部位に噴霧	1回

4 試験担当者

果樹研究室 主任研究員 岡垣菜美
 研究員 長谷川諒
 室長 池田隆政*
 ※現 農業大学校 教授